

様式 2

教科名	理科
-----	----

学校名 貫井中学校

現状分析（生徒の学習状況についての実態および定期考査等を含む学力調査の結果等を踏まえた内容別・観点別の分析表）

学習状況の実態	内容別・観点別結果の分析
<p>生徒たちの学習の様子を見ると、授業中は静かに授業を受けている。ただ、やる気もてず、時間だけを過ごしてしまっていたり、自分で復習する習慣がついていない生徒が目立つ。</p> <p>学校で行う定期考査において、授業で学習したことに沿った科学的な事物・現象についての知識・理解、科学的な見方や考え方を問う問題で、十分に結果を出せず定着が図れていないことがわかる。基礎的・基本的な問題で、定期考査後、くり返しの学習で定着させる必要がある。</p> <p>基礎の徹底を図るためにも授業内で小テストを頻繁に実施、その結果を細かく把握するなど、基礎的内容についての定着をさせるようにしていく必要がある。</p> <p>問題の内容を理解していても、計算に苦手意識があり間違えてしまう生徒が多いように感じられる。</p> <p>関心のある生徒とそうでない生徒の差が顕著に感じられる。</p>	<p>平成 27 年度の全国学力学習状況調査の結果を見ると、理科の平均正答率については校内が 54.8、都が 52.5、全国が 53.0 で、都や全国の平均値を上回った。</p> <p>具体的な設問を見てみると、実験に関する活用の設問についての正答率が低いことがわかった。実験、観察を行うときは実験の際の注意点や原理を繰り返し指導し定着をはかる。</p> <p>電気に関する設問では無回答が目立った。考える力を身につけさせるように授業においても問題演習の時間を増やす。</p> <p>平成 27 年度の児童・生徒の学力向上を図るための調査において密度の計算 8-(2)や地震の発生時刻の計算 9-(2)の正答率が両問とも 15%という結果であった。授業において計算演習の時間を確保して改善を図る。</p>